

人権が尊重される学校づくり

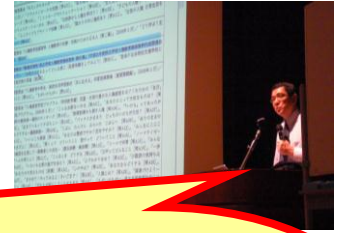
熊本県教育庁教育指導局 人権同和教育課

本年6月13日に実施した「平成25年度校長人権教育推進会議・県立学校人権教育主任研修」の概要についてお知らせします。

【講演】

講師：上越教育大学 梅野 正信 教授

演題：人権教育推進の意義と役割 ～人権感覚を育む学校づくり～



- 「人権教育のための世界計画」は、現在、第2フェーズであり、公務員等の研修に力を入れるという歴史的な段階になっている。
- この計画は、各国の人権教育を推進するために国連総会で決議されたものである。日本は共同提案国になっており、リーダー的な役割を果たしている。
- 人権教育は、すべての教育活動の基盤であり、教育の根幹（初心）にたちかえる教育である。
- 「傾聴すること」と「想像すること」が、学ぶということの基本であり、人権教育の基本でもある。
- 人の痛みや悲しみに気付く（想像する）ためには、知的な理解が欠かせない。
- 「想像する力」を育てるために、「繰り返し教える」こと、たくさんの教材を用意することこそ、先生方の高い専門性がある。
- 各都道府県教育委員会等が作成している人権教育に関する資料は、専門性が高くとてもすばらしい。熊本県教育委員会をはじめ、インターネットでもダウンロードできる資料があるので、各学校における人権教育の推進にぜひ活用してほしい。

【実践発表】

【天草市立浦和小学校】

- 「異年齢集団による交流」や、子どもが中心となって企画した「なかよし遊び」等、子ども同士の仲間づくりのための取組が工夫されています。

【宇土市立住吉中学校】（平成24・25年度文部科学省人権教育研究指定校）

- 生徒の実態から「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を明らかにし、年間指導計画・指導案への位置づけや授業参観シートの活用等、授業づくりの取組が工夫されています。

※研究発表会：平成25年11月22日（金）

【県立鹿本商工高等学校】

- 「Good Jobシール」の活用や、職員の人権教育に対する知識と経験の差を考慮し、効果的な研修となるよう「年代別研修」「新転任者研修」「現地学習」等、職員研修の在り方を工夫されています。

【県立人吉高等学校】

- 人権教育推進委員会が中心となり、事前の準備と事後の反省を充実させた「人権教育LHR」や、福祉施設での活動、支援学校の運動会・文化祭の補助員、小学生への学習指導等のボランティア活動が工夫されています。

【問い合わせ先】 人権同和教育課 096-333-2702